

がんばる平見ハイツ



☆グループホーム での生活☆

平見ハイツ

早いもので、グループホーム平見ハイツは平成27年2月に太地町に開所して5年目を迎えました。緊張と慣れない環境の中で始まった利用者の生活も、今ではすっかり落ち着いてそれぞれが生活を楽しんでいます。



りを大切にしています。
グループホームは利用者の『家』であり、ここにあるのは当たり前の安定した暮らしだけです。

朝は起床したら洗顔して普替えをして朝食を食べます。ご飯食の人もいればパン食の人もいます。中には朝から力ップ麺を食べている人も！ 食後は天気が良ければ洗濯物を外に干し、身支度を整え、「行ってきます！」と元気に出勤します。

作業所などで1日しっかりと働いた後は、夕方「たまたま！」と帰って来ます。「今日は何？」、「今日は販売に行って来たよ！」日中静かだったホームが急に賑やかになります。お待ちかねの夕食タイムにはみんながリビングに集まり楽しみにしている時間を過ごします。夕食後はお風呂に入り、お気に入りのテレビを見たりして10時頃にはみんな就寝します。

休日には自宅に帰ったり、移動支援を利用してヘルパーさんと外出し、買い物や外食、映画やカラオケを楽しんだりとそれぞれが自分の生活を謳歌しています。支援は、指示や指導ではなく、あくまで利用者の意思を尊重することに心がけ、「普通の暮らし」「自立に向けた暮らし」を送る必要なく支援を行い、地域とのつながりを大切にしています。

グループホーム平見ハイツが、これからも利用者みんなの『家』として、居心地の良い場所であり、毎日穏やかな暮らししが築ける場所であることを目指していきます。



発行者 いなほ福祉会
住所 那智勝浦町中里575
TEL 0735(57)0334
発行日 令和元年7月

第76号

通園めだかの役割



通園めだか

通園めだかは平成20年5月
紀宝町に楽しい遊びと生活を
通して、生活リズムや生活習
慣を確立し、子どもが生活の
主人公として豊かに活動でき
る保育・療育の場として誕生
しました。紀宝町よりお借り
している園舎では、毎日子ど
もたちの笑い声や泣き声が響
いており、にぎやかな園生活
を送っています。

通園めだかは児童発達支援
センターとして、子どもの発
達を保障する「発達支援」、
地域生活を支える「地域支
援」、「家族をサポートする
「家族支援」の3本柱の支援
を行っています。中でも「家
族支援」では週1回の親子保
育で保護者と職員が子どもの
育ちを確認し合う場や、子ど
もの発達や制度を学ぶ学習
会、また子育ての悩みや相談
できる場として懇談会の開催
等を行っています。今回は毎

保育所への入園式を間近に
ひかえた3月、初めて受けた
発達相談で小児科の先生に言
われた衝撃の言葉に絶句しま
した。「今、親として、してあ
げるべきことは保育所への入
所ではなく、めだがへ通わ
せてあげること、小さい時の
療育はとても大事なんです」
以前、ママ友の集まりの中で

「親と子が歩んだ
一年間の軌跡」



言葉がいっぱい増え、二語文があたりまえにできるようになり、時々三語文も出るようになりました。歌や手遊び、絵本が大好きになりました。落ち書きのない息子のために誰席せず楽しめるような工夫をしていただくなど、先生方が熱意と愛情を持って一生懸命保育して下さったおかげだと思っています。めだかに入る前までは、外に出ると猛ダッシュで逃走してしまう、落ち着いて外食が出来ないなど、とにかく困ったことが多く

「一歳半健診でひつかかかった子に紀宝町にある施設を紹介してくるんやつ。」と話しているのを聞いた事がありました。めだかを勧められたとき、すぐに紀宝町にある施設がめだかのことだと思いました。しかし、めだかについてなんの情報もなく障害に偏見がある人から異色の目で見られるような所へ息子が行かなくてはいけないと思うと辛くて仕方ありませんでした。

日々悩まされていましたが、今では徐々に逃走行為も薄れ、買い物に行っても親の側を離れず歩いてくれるようになりました、外食もゆっくり楽しめるようになりました。以前は、自分からひざの上に座ってくることも「抱っこ」「抱っこ」と甘えてくることもあります。でしたが、甘えることも多くなり、随分変わりました。こちらが調子悪くて黙っていると「どうしたの?」と言いながら顔を覗きこんだりもします。この1年の息子の成長を嬉しく思っています。めだかに導いてくれた保健師さん、今ではとても感謝しています。傷つき悩んだめだかへの入園の選択は間違つてないかだと実感しています。

ほたるの活動



放課後等
デイサービス事業

放ディほたる

これまで新宮市佐野で『第2通園くじら』としてお世話になつてきましたが、平成31年1月、三重県紀宝町井内に移転し『放ディほたる』と名称を改めて活動を開始しています。『放ディほたる』では、特別支援学校や、地域の支援学級に通う、小学校1年生から高校3年生までの子どもを対象に、学校を終えた平日の

放課後、土曜日、また学校の長期休暇などの時間を、家庭的な雰囲気の中ではつこり過ごす場所になるよう学童保育を行っています。



『子どもの声』

学校が終わってから、今日は『ほたる』で何をして遊ぶかな?と思います。活動の中で特にうれしいのは、公園や図書館へのお出かけ、そしてクッキング!です。違う学校のお友達と会えるのが楽しみです。

『保護者の声』

以前と比べるとずいぶんと手狭になり心配しましたが、佐野と比べるとのんびりズムに行ったり、地域の公園で楽しんだり、公共の場所やお店に出かけたり、スポーツやクッキング等、様々なことをして楽しめます。

『反対だと一緒だから楽しさ!』集団の取り組みの中で、主体性や社会性を身につけ、豊かな人格を育んで欲しいと思っています。

した。

『職員の声』

『第2通園くじら』から『放ディほたる』への移転では、保護者の皆様には様々な事で大変なご心配をおかけしました。環境の変化に弱い子ども達も多くいるので、ゆっくりと新しい環境に慣れ、ようやく全員が落ち着いてきました。学校でも家庭でもない『第3の居場所』として、楽しんでいきたいと思っています。

いなほのパン屋



5月27日より

たまごサラダ いちごジャム
あんバター クリーム ミルク
チヨコレート ピーナツクリーム
きなこクリーム

巷で話題のコッペパンサンド始めました★一つ90円!
朝焼き立てのコッペパンに
フラン30円でお好みの具材を
そのままお入れします。

皆様のご来店、
お待ちしております!

いなほ後援会が

解散いたしました

昭和58年に発足した「いなほ作業所」の法人化に向け、当初は「支える会」として活動が始まり、地域のみなさまから多くのご支援を頂きました。おかげさまで平成10年には社会福祉法人を取得して「いなほ作業所」を建設することができました。これを機に「支える会」は「いなほ後援会」として新たなスタートを切り、「児童分野への展開」「グループホーム」の建設や運営に資金面で多大なご支援をいただきました。

一度食べたらハマる!!

『キヤウ』



ワークショップゆうは、新宮市佐野で「小さなパン屋さん」として予約販売、移動販売を行っています。

所新宮分場として開所し、ロールパン1種類から始めました。平成22年4月にローソン新宮佐野店前に移転し、製パン機器を導入してからは本格的にパンや焼き菓子を製造販売しています。ワーケーションでは「働くこと」を通して、一人ひとりが持っている力を發揮し、地域社会で豊かに暮らしていくことを大切にしています。作業は主に製パン、製菓の製造と販売、事務の3つのグループに分かれています。今回は、製菓作業を紹介したいと思います☆

ワークショップゆうの人気商品、その名も「ゆうキー」です☆アーモンドスライスをこれでもか！とふんだんに使

楽しい」「美味しいって言つて貰えて嬉しい！」等、沢山思いが詰まっています。ご高齢の方や、小さなお子様でも食べやすいと評判で、若い方も「ハマった！」と続けて買って頂き、嬉しい限りです！



る、成形する、オーブンで焼く、ほとんどの作業を利用者が担当します。「難しいけど

いつもいなほ福社会ニユースをお読みいただきありがとうございます。

これまでニユースで各事業所の近況をお知らせしてきましたが、限られた紙面でお伝えしたいことにも制限があるため、今年度は試験的に事業所での様子を詳しく地域の方々にお知らせするために8つある事業所を4か所ずつ紙面を確保してお知らせすることとなりました。

今回掲載できなかつた事業所は
次回となります。
よろしくお願ひいたします。

用し、パリパリとした食感を楽しめ、アーモンドの風味が広がる、とってもおススメのオリジナルクッキーです。

だきい



障かいのある方一人ひとりが仕事へのやりがいを感じながら、毎日笑顔が絶えない職場、ワークショップゆうは、パンやゆうキー、事務作業と一生懸命がんばってます!

長年にわたり物心両面からご支援を下さった役員の皆様、後援会会員様はじめ、多くの住民の皆様に熱く心よりお礼申し上げ、解散のご報告とさせていただきま

事務の3つのグループに分かれています。今回は、製菓作業を紹介したいと思います☆

ワークショップゆうの人気商品、その名も『ゆうギー』です☆アーモンドスライスをこれでもか！とふんだんに使